

『アラビアンナイト・カルカット第2版』 アラビア語テキストデータベースの構築と その利用

中道静香[†] 永崎研宣^{††}

『アラビアンナイト・カルカット第2版』(1839-1842)は、アラビアンナイト研究・翻訳史において非常に重要な役割を果たしてきたアラビア語原典の一つである。本報告では、これまでに構築を進めてきた同版の全文テキストデータベースについて紹介し、またこれを利用した研究事例として「カルカット第2版」の言語学的分析を行う。

Full-Text Database of *the Arabian Nights, the second Calcutta edition:* Its Construction and application

Shizuka Nakamichi[†] and Kiyonori Nagasaki^{††}

This paper shows the way to construct a full-text database of *the Arabian Nights, the second Calcutta edition* and also presents a linguistic analysis of the Arabic text based on this database.

1. はじめに

『アラビアンナイト・カルカット第2版』(原題: *ʿAlf layla wa-layla* (千夜一夜))は、ジョン・ペイン、リチャード・バートンらによる英訳によってよく知られ、アラビアンナイト研究において重要な刊本(印刷本)の一つとみなされている。同版は、アラビア語原典からの初の邦訳である、平凡社東洋文庫版『アラビアン・ナイト』(前嶋信次・池田修訳)の底本として使用されたため、日本でも学術的な目的で参照・引用されることが多い。

国立民族学博物館の西尾哲夫教授は、これまでに複数のアラビアンナイト研究プロジェクトを主宰してきたが、その中の企画の一つとして「カルカット第2版」の全文テキストデータベースの構築が進められてきた[a]。本稿では、報告者らが最終的なデータの整備とシステム構築の作業を担当した立場から、データベース構築の方法論および内容について報告する。また、本データベース利用の一事例として、これに基づいたカルカット第2版のアラビア語分析を行う。

2. 『アラビアンナイト』の系統とカルカット第2版

『アラビアンナイト』のアラビア語原典としては、これまでにいくつかの刊本が出版されている。学術研究および翻訳史の観点から重要なものはおよそ次の5点に集約される。

- カルカット第1版 (1814-1818)
- ブレスラウ版 (1824-1842) [1]
- ブーラーク版 (1835) [2]
- カルカット第2版 (1839-1842) [3]
- ライデン版 (1984) [4]

最後のライデン版は後ほど言及することになるため、ここではまずカルカット第2版以前の4つの刊本の諸情報を表1にまとめておく。

[†] 日本学術振興会特別研究員 (RPD)・国立民族学博物館外来研究員
JSPS Research Fellow, National Museum of Ethnology

^{††} 一般財団法人人情報学研究所主席研究員/所長
International Institute for Digital Humanities

a) 現在進行中の研究プロジェクト名は、「アラビアンナイトの形成過程とオリエンタリズムの文学空間創出メカニズムの解明」(基盤研究 (S) 課題番号: 18102001, 研究代表者: 西尾哲夫)である。

表1 主な『アラビアンナイト』刊本

版名	カルカッタ第1版 Culcatta I ed. (C ¹)	ブレスラウ版 Breslau ed. (H)	ブーラク版 Bulaq ed. (Q)	カルカッタ第2版 Culcatta II ed. (C ²)
巻	2 vols.	12 vols.	2 vols.	4 vols.
編者	Shīrwānī al-Yamanī	C. M. Habicht H. L. Fleischer		W. H. MacNahten
発行年	vol.1 (1814) vol.2 (1818)	vol.1 (1824/5) vol.2 (1825/6) vol.3 (1827) vol.4 (1828) vol.5 (1831) vol.6 (1833/4) vol.7 (1837) vol.8 (1838) vol.9(1842) vol.10-12 (1843)	vol.1-2 (1835)	vol.1-2 (1839) vol.3 (1840) vol.4 (1842)
写本系統	シリア系		後期エジプト系	後期エジプト系
夜の数	200	1001	1001	1001(1000)

『アラビアンナイト』の写本系統は、300夜弱を含むシリア系写本(14-16世紀)と1001夜をもって物語を終える後期エジプト系写本(18-19世紀)に分類される[b]。カルカッタ第1版はシリア系写本をもとに編纂された、200夜のみを含む刊本である。一方、ブーラク版とカルカッタ第2版は、後期エジプト系写本に拠った刊本とされ、ともに話数が多く1001夜で物語が完結する。また、含まれている物語の数、その順番、夜の区切りがおおむね同じであるなど、両版は非常に似通った内容をもつ。原題の『千夜一夜』を体現していることから、後期エジプト系に属するこれらの刊本は、より完全な『アラビアンナイト』とみなされ、翻訳の底本として好まれるところとなった。以下のように、カルカッタ第2版の翻訳は6ヶ国語にのぼり、またごく最近出版された仏・英訳にもこの版が使用されている。

b) このほかに初期エジプト系写本と分類されるものがある。これらは17世紀頃、原題に合わせて物語を増やし、1001夜を完備する意図をもって作られた写本群を指す。

- (英) John Payne (tr.), *The Book of the Thousand Nights and One Night: Now First Completely Done into English Prose and Verse, from the Original Arabic*, 9 vols., 1882-1884, London, Villon Society.
- (英) Richard F. Burton (tr.), *The Book of the Thousand Nights and a Night: With Introduction, Explanatory Notes on the Manners and Customs of Moslem Men and a Terminal Essay upon the History of the Nights*, 10 vols., 1885, Benares, Kamashastra Society.
- (独) Enno Littman (tr.), *Die Erzählungen aus den tausendundein Nächten: zum ersten Mal nach dem arabischen Urtext der Calcuttaer Ausgabe von Jahre 1839 übertragen von Enno Littmann*, 6 vols., 1921-1928, Leipzig, Insel-Verlag.
- (露) M. A. Sal'e (Михаилом Александровичем Салье) (tr.), *Tysyacha i odna noch* (Тысяча и одна ночь), 8 vols., 1929-1939; 2nd edition 1958-1959.
- (チェコ) Felix Tauer (tr.), *Kniha Tisíce a jedné noci*, 6 vols., 1928-1934; 2nd, complete edition, 8 vols., 1958-1963.
- (日) 前嶋信次・池田修(訳)『アラビアン・ナイト』全18巻, 1966-92, 東京, 平凡社(東洋文庫)。
- (仏) Jamel Eddine Bencheikh et André Miquel (tr.), *Les mille et une nuits*, 3 vols., 2005-2006, Paris, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard.
- (英) Malcolm C. Lyons and Ursula Lyons (tr.), *The Arabian nights: Tales of 1001 Nights*, 3 vols., 2008, London, Penguin.

これまでの『アラビアンナイト』研究・翻訳史から見ても、カルカッタ第2版の資料的価値は十分に高く、その全文テキストデータベース化は『アラビアンナイト』研究に新たな知見をもたらす重要な試みであるといえる。

3. データベース構築の方法論

3.1 テキストデータ作成の経緯

カルカッタ第2版のテキストは、2名のアラビア語専門家によって入力された。その際、アラビア文字を直接入力するのではなく、アラビア文字を汎用性の高いASCIIに転写した上で入力する方法がとられた。これは、作業が開始された当時(1998年頃)、OSごとに異なるアラビア文字コードが使用されており、互換性が十分でなかったという事情による。その後、Unicode環境が整備され、これが一般ユーザにとっても実用的になった状況をふまえ、ASCIIでの入力が完了したテキストを報告者らがUTF-8のアラビア文字コードへ変換し、OS環境を問わずに適切に文字表示可能なアラビア文字テキストが完成した。

3.2 テキストデータの特徴

本データベースのテキストデータは以下のような特徴をもっている。

- ASCII および UTF-8 アラビア文字による 2 種類のデータを備える：
 主に ASCII テキストは処理用，アラビア文字テキストは表示用に使用される
- 原典テキストは行単位で入力し，行頭に 7 桁の数字で「巻，頁，行」を明示する：
 刊本の該当箇所へのアクセスを容易にする
- 原典を忠実に再現する：
 一般的なアラビア語テキストでは省略される母音記号などの補助記号，変則的な表記，誤植なども，原典通りに入力する



図 1 カルカッタ第 2 版原典 第 1 巻 211 頁

```

0121101 ArkAn tIk Al-fsqyT .tywr bAl-dr w Al-jwHr mfrwCT bAl-bs.t w Al- hrry Al-mlwn
0121102 w Al-mrAtb flmA d_hlt jlst w Adrk chrzAd Al- sbA.h fskt 9n
0121103 Al-klAm Al-mbA.h
0121104 flmA kAnt Al-lyIT Al-sAdsT w Al-9crwn
0121105 qAlt bl.gny AyhA Al-mlk Al-s9ydAn Al-cAb Al-tAjr qAl ll-n.srAny flmA
0121106 d_hlt w jlst lm Ac9r AIA w Al- sbyT qd Aqblt w 9lyhA tAj mklI
0121107 bAl-dr w Al-jwHr w hy mnqcT mktbT flmA #Atny tbsmt fy wjhy
0121108 w .h.dntny w w.d9tny 9ly? .sdrhA w j9ltI fyhA 9ly? fmy w j9lt
0121109 tm.s lsAny w AnA k_dlk w qAlt .s.hy.h Atyt 9ndy fqIt lhA AnA
0121110 9bdk fqAlt AhIA w mr.hbA w Allh mn ywm #Aytk mA l_dly nwm
0121111 w IA hn#Y ly .t9Am fqIt w AnA k_dlk_tm jlsnA nt.hd_t w AnA m.trq
0121112 b#Asy AIY Al-Ar.d .hya' fmA lb_tt AIA qdmt ly sfrT mn Af_hr AlwAn
0121113 Al-A.t9mT mn skbAjh w qrbws mqly mnzl fy 9sl n.hl w djAj
0121114 m.hcy fAkt w AyAhA w AktfynA fqd mwAlY Al-tct w Al-Abryq f.gslt
0121115 ydy _tm t.tybnA bAl-mAwdr Al-mmsk _tm jlsnA nt.hd_t fAncdt tqwI
0121116 h_dh Al-AbAyAt
0121117 lawI 9alimInA quduwlmakumI lanacarInA / muhIjaTa All-qalIbi ma9a sawaAdi All-9uyuwIn
0121118 wa faraclnaA _huduwlDan?A liliqaAKumI / liyakwInA All-mas&yIru fqvIqa All-jufuwIn
0121119 w hy tckw Aly" mA lAqt w AnA Ackw lhA mA lAqyt w tmkn .hbhA 9ndy
0121120 w hAn 9ly jmy9 Al-mAl_tm A_h_dnA nI9b w nthArc w ntbAws AIY?
0121121 An Aqbl Al-lyI fqdwmA lnA Al-jwAr Al- t9Am w Al-mdAm fA_dA hy .h.drT kAmIT
0121122 fcrbnA AIY? n.sf Al-lyI _tm A.s.zj9nA w nmnA ffmt m9hA AIY Al-sbA.h
    
```

図 2 ASCII テキスト (第 1 巻 211 頁部分)

例えば，図 1 のような原典の各頁は，図 2 のように該当部分の巻・頁・行の数字[c]を示した後，ASCII による転写文字で入力された．これらの ASCII テキストが全巻分そろった段階で，図 3 のような UTF-8 アラビア文字コードによるアラビア文字テキストへと変換された．原典の本文 4 行目（図 1 の上から 5 行目．1 行目はヘッダ部で左端に頁番号，中央に物語の題名）のセンタリングや，本文 3，16 行目に見られる長い横線（両端揃えのためのアラビア語組版独特の文字配置）など，レイアウトまで再現することは現時点ではできていないが，文字情報については本文 17-18 行の文字の上下に付された補助記号を含め，全ての情報が図 3 のアラビア文字テキストに含まれている．なお，題名等のマークアップについては，枠物語としてのアラビアンナイトの構造を提示することとも関わるものであり，それも含めた上で現在検討中である。

c) 例えば，"0121103"は 1 巻 (01)，211 頁 (211)，3 行 (03) を表す。

0121101 اركان تلك الفسقية طيور بالدر و الجوهر مفروشة بالنسب و الحرير الملو
0121102 و المراتب فلما دخلت جلست و ادرك شهرزاد الصباح فسكنت عن
0121103 الكلام المباح
0121104 فلما كانت الليلة السادسة و العشرون
0121105 قالت بلغني ايها الملك السعيدان الشاب الناجر قال للنصراني فلما
0121106 دخلت و جلست لم اشعر الا و الصبية قد اقبلت و عليها تاج مكلل
0121107 بالدر و الجوهر و هي منشفة مكتبة فلما رأيتي تبست في وجهي
0121108 و حضنتني و وضعتني على صدرها و جعلت فيها على فمي و جعلت
0121109 تمص لساني و انا كذلك و قالت صحيح اتيت عندي فقلت لها انا
0121110 عبدك فقالت اهلا و مرحبا و الله من يوم رأيتك ما لذلي نوم
0121111 و لا هني لي طعام فقلت و انا كذلك ثم جلستا تتحدث و انا مطرق
0121112 برأسي الى الارض حياء فما لبثت الا قدمت لي سفرة من افخر الوان
0121113 الاطعمة من سكباجه و قريوس مقلي منزل في غسل نحل و دجاج
0121114 محشي فاكلت و اياها و اكتفينا فقد موالي الطشت و الابريق فغسلت
0121115 يدي ثم تطيبنا بالماورد المسك ثم جلستا تتحدث فانشدت تقول
0121116 هذه الايات
0121117 لَوْ عَلِمْنَا قُدُومَكُمْ لَتَشَرْنَا / مُهْجَةَ الْقَلْبِ مَعَ سَوَادِ الْعُيُونِ
0121118 وَ قَرَشْنَا حُلُودَنَا لِلْيَقَاكُمْ / لِيَكُونَ الْمَسِيرُ فَقَرَقَ الْجُفُونِ
0121119 و هي تشكو الي ما لاقت و انا اشكو لها ما لاقيت و تمكن حبيها عندي
0121120 و هان علي جميع المال ثم اخذنا نلعب و نتهارش و نتباوس الي
0121121 ان اقبل الليل فقدموا لنا الجوار الطعام و المدام فاذا هي حضرة كاملة
0121122 فشرينا الي نصف الليل ثم اصطحبنا و نمنا فنمت معها الي الصباح

図 3 アラビア文字テキスト (第1巻 211 頁部分)

3.3 Web データベースの機能

本データベースは Web データベースとしても公開する予定だが、それに関しては、『アラビアンナイト』という書物の独自性を考慮して、データベースに以下の機能を取り入れることを目指している。

- 『アラビアンナイト』テキストの特徴ともいえる、「夜の区切り」および「夜の番号」を明示する
- 同じく『アラビアンナイト』の特徴である枠物語の構造と各物語の題名を示す
- テキストデータの任意の部分を選択することで、原典頁のデジタル画像を呼び出し、並置する
- 人名・地名などのインデックスを作成し、テキストの該当箇所を明示する
- テキスト中の語を選択することによって、テキスト全体からその語を検索し、該当行を一覧表示する
- 民族誌的キーワード (例えば民族楽器の名称など) のインデックスを作成し、画像とリンクさせる

これらは、『アラビアンナイト』そのものだけでなく、アラブ文化に関心をもつより広い範囲のユーザを想定した機能である。

4. データベースの利用：カルカッタ第2版の言語的特徴を探る

4.1 カルカッタ第2版の複合性

本節では、上記データベースのテキストデータを使用することで、カルカッタ第2版のアラビア語に見られる言語的特徴を分析する試みを行う。この分析により、同版の典拠や形成過程の解明に寄与するであろう、いくつかの事実を提示したい。まず、カルカッタ第2版とそれが依拠したマカン写本との関係について確認しておこう。

カルカッタ第2版 (全4巻) は、英国のターナー・マカン少佐という人物がカルカッタにもたらしたエジプトの写本に基づき編纂されたこととされ、刊本の表紙にもその旨明記されている。しかし、マカン写本と同定できる写本は見つかっておらず (編纂作業過程で写本の状態が悪くなり、破棄されたともいわれる)、この刊本の起源についてはまだ謎の部分が多い。第2節で述べたように、カルカッタ第2版は18世紀後半に成立したとされる後期エジプト系写本群 (『アラビアンナイト』写本を分類したゾーテンベルグの名をとって Zotenberg's Egyptian Recension (ZER) と呼ばれる) に属することは疑いなく、マカン写本自体もその流れをくむ写本と考えられる。しかし同時に、カルカッタ第2版で使用されているアラビア語の特徴には一貫性がないことや、含まれている物語やモチーフが後期エジプト系以外の要素、すなわちシリア系写本の要素を含むことが指摘されている。これらは、言語や物語構成に一貫性をもち、それゆえ

一人の人物が作成した写本に基づくと考えられているブーラク版と大きく異なる点である。

たとえば、著名なアラビアンナイト研究者であるグロツフェルト[7]は、マカン写本が完全な ZER の写しかどうかは疑わしいと考えている。彼の見立てはこうである。カルカッタ第 2 版の最初の 4 分の 1 (第 1 巻) は、ブーラク版とは異なる。この部分は ZER の他の写本と同様、散文箇所「中間アラビア語 (Middle Arabic)」[d]が修正されずに残っている。一方、残りの 4 分の 3 (第 2~4 巻) については、カルカッタ第 2 版とブーラク版のテキストはほぼ同じであり、カルカッタ第 2 版のアラビア語はブーラク版と同様洗練されたもの (正則アラビア語の文法規範に沿ったもの) となっている。これらをふまえ、グロツフェルトはカルカッタ第 2 版の第 2~4 巻部分がブーラク版テキストを直接的あるいは間接的に写して印刷された可能性がある、とやや控えめに述べている。

一方、『アラビアンナイト』の写本と刊本を網羅的に調べ、写本の系統関係について数々の発見を行ってきたムフシン・マフディ[11][12]は、カルカッタ第 2 版は後期エジプト系に属するものでありながら、その中にはすでに出版されていたカルカッタ第 1 版とブレスラウ版 (第 2 巻まで) の内容が含まれると指摘する。その根拠として、次の 4 点をあげている[e]。

- 後期エジプト系に見られる「シンディバード王の話」(第 5 夜) を含む
→マカン写本が後期エジプト系写本に属することの証左
- シリア系の「嫉み男と嫉まれ男の話」(第 13 夜~) を含む
→ブレスラウ版からの引用
- 「大臣ヌールッ・ディーンとシャムスッ・ディーンの物語」(第 20 夜~) の結末が通常と異なり、長いバージョンである
→カルカッタ第 1 版からの引用
- 「裁縫師の話」(第 29 夜~) の中で言及される日付が、シリア系写本と同じアレキサンドリア歴を含む
→ブレスラウ版から引用

なおブーラク版との関係に関するマフディの見解は、グロツフェルトとは異なり、カルカッタ第 2 版編纂作業において、ブーラク版の参照はなかったとみている。

まとめると、グロツフェルトは第 1 巻と第 2~4 巻との間に性格の違いを見出し、しかも第 2~4 巻についてはブーラク版との共通性を指摘する。一方マフディは、第 1

d) 口語の影響により、正則アラビア語からの文法的逸脱や口語的語彙を含むアラビア語。

e) 以下、各物語の題名は東洋文庫版『アラビアン・ナイト』[6]に従うことにする。

巻前半部分にカルカッタ第 1 版およびブレスラウ版からの混入があるという。このように、カルカッタ第 2 版はきわめて複合的な様相を呈しており、様々な典拠の存在を示唆していることがわかる。以上の原典の特徴をふまえ、次にテキストデータベースを用いて数量的にこの複合性を検証してみたい。

4.2 正書法および言語的特徴からみたテキストの複合性

カルカッタ第 2 版の第 1 巻に中間アラビア語が含まれている、とのグロツフェルトの説はすでに紹介した。グロツフェルトは具体的な例示はせず、全体的な特徴として述べているのだが、実際カルカッタ第 2 版には正書法からの逸脱や口語の影響と思われる語彙が散見される。ここでは、いわゆる「正則アラビア語 (Standard Arabic, SA)」の文法規範から逸脱している以下の 10 の形式について、分布を調べることにする。

正書法からの逸脱

- (1) 行末に و wa (and) があらわれる
- (2) šay'an (thing, accusative) に 3 種類の表記がある (以下の 2a が逸脱した形式)
(2a) شَيْئًا , (2b) شَيْئًا , (2c) شَيْئًا
- (3) bukā'an (crying, accusative) に 2 種類の表記がある (以下の 3a が逸脱した形式)
(3a) بكاء , (3b) بكاء
- (4) hamza の支えの yā の下に点がある (cf. に示した点のない形が正しい)
خمسمائة cf. خمسمائة
- (5) 2 人称女性単数の接尾代名詞に yā が付加されている (cf. に示した形が正しい)
عليكي 'alay-ky cf. عليك 'alay-ki (on you (f.))
ويلكي wayla-ky cf. ويملك wayla-ki (woe unto you (f.))

中間アラビア語 (Middle Arabic) 的語彙 ("<" の右側は、正則アラビア語の形式)

- (6) ايش 'ayš (what) < أي شَيْءٍ 'ayy šay'in
لايش li'ayš (why) < لأي شَيْءٍ li-'ayy šay'in
- (7) فين fēn (where) < في أين fi 'ayna
- (8) بتاع bitā' (of, belonging to)
- (9) جاب jāb (bring) < جاء ب jā'a bi-
- (10) علوز 'āwiz (want)

まず、これらの特徴の分布を巻ごとに見てみよう。表 2 を参照されたい。

表の SA の列は、各言語形式が正則アラビア語の文法規範に沿うものかどうかを示している。規範通りの形式には○、規範と異なるものには×を記入してある。この×の印をついた形式をみていくと、第 1 巻にはいくつかの例が見つかるのに対し、第 2 巻以降はほぼ 0 に近いことがわかる。(1)の行末の"wa"については、第 1~4 巻の全て

に見られるが、それでも第1巻における生起数は他巻に比べて圧倒的に多い。一方、正則アラビア語の規範に沿った形式は、どの巻も生起数が多く、4つの巻の間に特別な差を見出すことはできない(2bを除く)。

表2 10の形式の生起数：巻別

		SA	vol.1	vol.2	vol.3	vol.4
(1)	行末の"wa"	×	302	36	41	47
(2a)	šay'anの表記a	×	13	0	0	0
(2b)	šay'anの表記b	○	65	0	0	0
(2c)	šay'anの表記c	○	154	136	204	190
(3a)	bukā'anの表記a	×	7	0	0	0
(3b)	bukā'anの表記b	○	31	38	20	47
(4)	hamzaの支えのyāに点がある	×	48	0	1	1
(5)	2.f.sg.の接尾代名詞にyāが付加される	×	5	0	0	0
(6a)	ʾayš, liʾayš	×	57	1	0	0
(6b)	ʾayy šay'in, li-ʾayy šay'in	○	74	67	109	95
(7)	fēn	×	2	0	0	0
(8)	bitā'	×	2	0	0	0
(9)	jāb	×	12	1	0	2
(10)	9āwiz	×	4	1	0	0

グロツフェルトの指摘した通り、第1巻は中間アラビア語を含むことによって特徴づけられ、第2巻以降はおおむね正則アラビア語の規範に則った形式のみが用いられているということが、生起数の巻別比較によって明らかになった。

ただし、第1巻における「正書法からの逸脱」や「中間アラビア語的語彙」の生起数は、それほど多いものではない。そこで、次に第1巻をより詳しくみていくことにする。表3は、第1巻を50頁ごとに区切って、上記形式の分布を示したものである。網掛けの部分に当該形式が使用された箇所である。この表より、正則アラビア語の規範からはずれた形式は、前半の約3割の部分に集中していることがわかる。351頁以降にも生起例をもつ箇所が5つあるが、このうち4つは1例、残りの1つが3例と数が少ない。

表3 第1巻における正則アラビア語からの逸脱形式の分布

	第1巻の頁																	
	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250	251-300	301-350	351-400	401-450	451-500	501-550	551-600	601-650	651-700	701-750	751-800	801-850	851-910
(2a)	9	2	2															
(3a)	2	2	1						1				1					
(4)	22	22	3		1													
(5)	1	4																
(6a)	4	3	3	11	9	9	13						3	1			1	
(7)				2														
(8)				1	1													
(9)	1	1		3	7													
(10)				4														

便宜上 50 頁を 1 単位とした表 3 によれば、正書法からの逸脱 ((2a), (3a), (4), (5)) は冒頭から 150 頁までに集中し、中間アラビア語的要素 ((6a), (7), (8), (9), (10)) は 350 頁までとより広い範囲にわたって生起していることがわかる。また、351 頁以降のテキストにはこれらの特徴がほとんどみられない。

4.3 シリア系および初期エジプト系写本との関連

では、これらの正書法および言語的特徴の分布は、『アラビアンナイト』に含まれる物語とどのように結びついているだろうか。

カルカット第 2 版の 1-150 頁付近までは、冒頭の「シャハリヤール王とその弟君の話」に始まり、「商人と魔王との物語」「漁夫と魔王との物語」「荷担ぎやと三人の娘の物語」そして「三つの林檎の物語」(148 頁まで) が含まれる。その後 350 頁までは、「大臣ヌールッ・ディーンとシャムスッ・ディーンの物語」「せむしの物語」「ヌールッ・ディーン・アリーとアニスッ・ジャリースの物語」(320 頁まで)「狂恋の奴隷ガーニム・イブン・アイユブの物語」(350 頁まで) と物語が続く。

先述のライデン版[4]は、ムフスィン・マフディがシリア系のガラン写本(アントワーヌ・ガランが仏訳[5]の際に使用した写本)を校訂したものである。この刊本における(完結部をもつ)最後の物語が、「ヌールッ・ディーン・アリーとアニスッ・ジャリースの物語」である。その後の「カマル・ウッ・ザマーンの物語」は序盤だけで中断し、「狂恋の奴隷ガーニム・イブン・アイユブの物語」もライデン版には存在しない。カルカット第 2 版の中間アラビア語的語彙は、301-350 頁に生起しているものの、その多くは 320 頁までであり、「ヌールッ・ディーン・アリーとアニスッ・ジャリースの物語」の終了部を一つの区切りとみることもできる。つまり、カルカット第 2 版において「正則アラビア語からの逸脱」の多い 320 頁までの部分は、ちょうどシリア系写本の全体と重なるのである。

シリア系写本の物語が後期エジプト系写本の前半部分に含まれていることは周知の事実であり、シリア系写本の物語を核とし、数世紀をかけて様々な物語が付け加えられ、まとめられたのがエジプト系写本である、という説が広く受け入れられている。マフディの校訂した「ガラン写本」は全体を通して正則アラビア語とは大きく異なる中間アラビア語で書かれているのだが[8][9]、ここでとりあげた言語的特徴の分布は、シリア系写本部分とほぼ一致することが明らかになった。

5. おわりに

もともと民衆の間で口承によって語り伝えられた『アラビアンナイト』は、それが文字で記されるようになってからも、口語の影響を強く受けたアラビア語で書かれて

きた。しかし、1835 年エジプトの国立印刷所初の出版物として世に出されたブーラーク版は、正則アラビア語(文語)の形に整えられたものだった。一方、ほぼ同時期に非アラビア語圏のインドで、しかもイギリス人の手によって編纂・出版されたカルカット第 2 版は、基本的には正則アラビア語で書かれているものの、少なくとも第 1 巻の前半部分ではアラビア語の校訂や組版の正確さが十分でなかったらしく、正則アラビア語とは異なる書法や語形が痕跡のような形で残ることとなった。しかしこの痕跡こそが、マカン写本ひいては後期エジプト系写本の源流をたどる手掛かりとなる可能性は十分にある。具体的な写本や刊本との照合が今後の課題となるだろう。

最後に、今回のデータベース構築において、原典に忠実なテキスト作成を行ったことが、このような痕跡を集めるのに非常に有益に働いたことを付言しておきたい。

付記 本研究は、平成 22 年科学研究費補助金・基盤研究(S)(課題番号:18102001, 研究代表者:西尾哲夫), 特別研究員奨励費(課題番号:20・40040, 研究代表者:中道静香), 若手研究(B)(課題番号:22700255, 研究代表者:永崎研宣)による研究成果の一部である。

参考文献

一次文献:『アラビアンナイト』

- 1) *Tausend und eine Nacht: Arabische.* (1824/25-1843) edited by M. Habicht (vol.1-8) and H. L. Fleischer (vol.9-12). 12 vols. Breslau.
- 2) *ʿAlf layla wa-layla.* (1835) edited by Muḥammad Qiṭṭa al-ʿAdwā. 2 vols. Bulaq (Cairo).
- 3) *The Alif Layla or Book of the Thousand Nights and One Night.* (1839-1842) edited by W. H. Macnaghten. 4 vols. Calcutta, W. Thacker & Co. St. Andrew's Library.
- 4) *The Thousand and One Nights (Alf Layla wa-Layla) from the Earliest Known Sources, Part 1: Arabic Text.* (1984) edited by Muhsin Mahdi. Leiden, E. J. Brill.
- 5) *Les Mille et une nuits, contes arabes, Nouv. éd.* (1747 [1704-1717]) translated by Antoine Galland. 6 vols. Paris. Chez David Jeune.
- 6) 『アラビアン・ナイト』(1966-92) 前嶋信次・池田修(訳) 全 18 巻, 平凡社(東洋文庫)。

二次文献

- 7) Grotzfeld, Heinz (1985) Neglected Conclusions of the Arabian Nights: Gleanings in Forgotten and Overlooked Recensions. *Journal of Arabic Literature* 16, 73-87.
- 8) Grotzfeld, Heinz (2004) The Manuscript Tradition of the Arabian Nights. In Marzolph and Leeuwen (ed.) *The Arabian Nights Encyclopedia*, 17-21.
- 9) Halfants, Bruno (2007) *Le Conte du Portefaix et des Trois Juenes Femmes dans le manuscrit de Galland (XIVe-XVe siècles): Édition, traduction et étude du Moyen Arabe d'un conte des Mille et Une*

Nuits. Peeters Press.

- 10) Lentin, Jerome (2004) La langue des manuscrits de Galland et la typologie du moyen arabe. In Chraïbi, A. (dir.) *Les Mille et Une Nuits en partage*. Actes Sud., 434-455.
- 11) Mahdi, Muhsin (1984) *The Thousand and One Nights (Alf Layla wa-Layla) from the Earliest Known Sources, Part 2: Critical Apparatus, Description of Manuscripts*. E. J. Brill.
- 12) Mahdi, Muhsin (1994) *The Thousand and One Nights (Alf Layla wa-Layla) from the Earliest Known Sources, Part 3: Introduction and Indexes*. E. J. Brill.
- 13) Marzolph, Ulrich and Leeuwen, Richard van (ed.) (2004) *The Arabian Nights Encyclopedia, 2 vols*. ABC-Clío.
- 14) 青柳悦子 (2009) 『デリダで読む『千夜一夜』』新曜社.
- 15) 西尾哲夫 (1007) 『アラビアンナイト—文明のはざまに生まれた物語』岩波書店.
- 16) ロバート・アーウィン (西尾哲夫訳) (1998) 『必携アラビアン・ナイト—物語の迷宮へ』平凡社.